

文教大学情報学部 社会調査ゼミナール 卒業論文

「就職活動と内定要因」

2012年1月

情報学部 広報学科 4年
貞方 幸子

目次

第1章 調査研究の概要	2
1.1 調査研究の目的と背景	2
1.2 調査に関連する状況	2
1.3 調査研究の方法	3
第2章 調査研究の成果	6
2.1 調査回答者の概要	6
2.2 内定と非内定の割合	7
2.3 学業に見る傾向	8
2.4 課外活動	9
2.5 資格	11
2.6 就職活動の開始時期・活動数など	13
2.7 自己アピール	15
2.8 就職活動のストレス	16
2.9 就職活動の定型的努力	17
2.10 モラトリアム	20
第3章 まとめと今後の課題	23
3.1 研究結果のまとめ	23
3.2 今後の課題	24
単純集計結果	25

第1章 研究調査の概要

1.1 調査の目的と背景

リーマンショック以降、大学・高校新卒者の就職難が未だに回復していない。特に今年度は東日本大震災の影響もあり、選考の予定が変更されるなど、学生側だけでなく企業側にも戸惑いが見られた。

その様な学生には厳しい環境下であるが、学生は必死に就職活動を行っている。学生の就職活動は概して3年次の12月辺りから始まる。そして長く続く人は4年次の終わり頃まで活動する。落ちては次を受け、さらに落ちては次を受ける。その過程で複数社の内定を得る学生も居るが、概しては得られても1社であり、その1社も得られない学生が多い。

受験の企業数で見れば、10社、20社の受験は普通であり、多くなれば40社、50社にも至る。それに対応して、就活のはじめのエントリーシートも数10社程度書くのは珍しいことではない。それでも内定を得ることが出来ない学生も相応に存在している。

この様な状況を打開するために、大学はガイダンスを強化している。SPI講座、就職面接対策講座、学習講座などを多数開設し、学生の就職活動を支援している。

この様に多くの激しい努力がなされるが、それでもなかなか内定を得ることが出来ず、就活成功の決め手が分かりにくい状況にある。

そこで本研究では、就職活動の状況を調査し、今後の就職活動の円滑化のための何らかの知見を得ることを試みた。具体的には、内定を得た学生と得られない学生とで、どの様な違いがあるかを分析し、そこから今後のための教訓を得ることを試みた。

1.2 調査に関連する動向

(1)モラトリアム期が終わらない就活生

かつて Erikson(1959)は自身の心理社会的発達理論の中で、アイデンティティ(自己統一性、主体性。自我の統一といったところのもの)の確立は職業決定とその自己の在り方を受容することと考え、大学に入学することはそれを模索するためのモラトリアム(一定猶予)期としていた。

現代ではどうか。土田・平部・田島・川原(2010)の研究では、就活生たちは、就職難な現代でも不景気や社会情勢を不安に思うより、「自分はいったい何がしたいのか」と言った、自我で悩んでいるという結果が出ている。

このふたつの研究を参照し、土田は、近年の心理社会的環境の変化によって、かつてより青年期が延びてきていることが関係すると考察している。現代の青年後期は35歳までとされており、その分アイデンティティの確立も昔より遅く、ゆるやかに発達するものとなっている。

そのため、現代の学生は、大学入学=モラトリアム期に入っても、その中ではアイデンティティは確立されておらず、その状態で就職活動の早期化・困難化を迎えており、就活生は内面にギャップを抱えながら就職活動をしていると思われる。

(2)就職活動でストレスを感じる就活生

前述したように、現在の就活生は社会の実情と内面にギャップを抱えながら就職活動をしている。では、このギャップが就活生にさらなるギャップを与えていないだろうか。

松田・永作・新井(2010)は、就職・労働という以後の人生に対する不安よりも、就職活動そのものに不安・ストレスを感じる学生が多いことを発表している。また、就職活動への不安が高まると活動量・満足感低下に繋がってしまうことが示され、就職活動への不安が就職活動そのものを抑制していると言える。

つまり、就活生の多くは、人生の目標に悩むというよりは目の前の就職活動に悩み、悩みすぎて動けなくなっているという負の連鎖が起きていると思われる。

(3)テンプレート化する就職活動

井村(2010)や森(2010)は、就職活動自体が恒例化してしまったために、就活生達がいわゆる「就活マニュアル」に頼るようになってしまい、「経験あり」など、典型的な履歴書が氾濫し、かえって企業には無個性と見なされているという。

また、テンプレート化によって、むしろ自分の個性を打ち消してしまっていることに気が付かない学生も多いという。

(4)まとめ

以上から、現代の就活生の特徴をまとめると

モラトリアム期が終わらない 社会とのギャップに悩む 活動量・満足感低下 テンプレート化
--

といった、負の連鎖が続いていると言える。

特に、就職難に悩む以前に自己について悩むことは、もちろん就職に関連があることだが、本来モラトリアム期が終わる大学 4 年生の時点であり悠長に悩んでいる場合ではない。就職活動を早く成功するためには早期のモラトリアム完成が大切である。

1.3 調査研究の方法

(1)進捗経緯

4～5月 調査テーマ討論

6月 調査テーマ決定・調査テーマ具体化

7～10月 ゼミ討論・調査票作成

10月 最終討論

11月 調査票完成

11～12月 学内での調査実施・回収・集計・単純集計結果報告・報告書作成

(2)調査の概要

a. 調査の意図・仮説

今回の調査は、先述した「モラトリアム」「ストレス」「テンプレート化」の3要因に、ゼミナールでの討論にて就職活動のときにポイントになるとされた「学業」「課外活動」「資格」「就職活動を始める時期・活動数」「自己アピール」を足した8要因を確立、就職活動の成果をこの要因で比較し、内定者と非内定者に何か違いがあるとした。

以下、仮説である。

《各要因の仮説》

学業 学業の良し悪しは、内定に関係するのか。

課外活動 課外活動従事者、非従事者で違いはあるのか。活動具合は関係するのか。

資格 資格を持つことは就職活動で有利と言われるのは本当か。

就職活動開始時期・活動数 時期や選考を受ける回数に違いはあるか。

自己アピール 課外活動、資格以外で就職活動の際に優位なものとは何か。

就職活動のストレス 就職活動で何がストレスになるのか。ストレスによって結果は左右されるか。

就職活動の定型化 定型化(テンプレート化)は実際に行われているのか。行われていたとして、それはどのような結果につながるのか。

モラトリアム モラトリアム期にどのように過ごせば内定につながるのか。自立意識はできているのか。

b. 調査対象者

文教大学湘南キャンパス学生(4年生)

c. 調査方法

各ゼミナール、授業時間内に配布・回収

d. 主な調査項目

- ・就職活動に向けてのテンプレート利用具合
- ・課外活動経験
- ・資格取得
- ・自己アピール
- ・就職活動でのストレス
- ・学業の具合
- ・モラトリアム、1・2年生のころの目標
- ・就職活動を始めた時期・活動数
- ・働くことそのものへの意識(人生のビジョン)
- ・フェースシート

e. 配布(依頼)回収数

- ・高田ゼミナール 3
- ・日吉ゼミナール 4
- ・関ゼミナール 6
- ・石塚ゼミナール 10
- ・川合ゼミナール 10
- ・志村ゼミナール 14
- ・藤掛ゼミナール 2
- ・田畑ゼミナール 12
- ・佐久間ゼミナール 3
- ・石田ゼミナール 3
- ・奥田ゼミナール 14
- ・阿野ゼミナール 14
- ・山脇ゼミナール 12
- ・小林ゼミナール 12
- ・横川ゼミナール 14
- ・新聞論 4

合計数 134 無効票 24

第2章 調査研究の成果

2.1 調査回答者の概要

調査は、文教大学の一部ゼミナールの4年生と新聞論に出席していた4年生の協力を得て行った。なお回答標本は無作為抽出で作成してはいたないために、母集団から見て標本に偏りが生じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表2-1-1と表2-1-2で確認しておく。

表2-1-1の学部別分布では、情報学部58.2%(64人)、国際学部40.0%(44人)となっている。やや母集団と似た傾向になっている。また、表2-1-2の性別分布では、男子の割合が低く、女子の割合が高い傾向となっている。

これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかし、クロス集計やグループ平均などの層化を行った集計では、影響は限定されていると考える。

表 2-1-1 回答者と母集団の比較

	情報学部	国際学部	計
回答者	58.2 (64)	40.0 (44)	100.0 (108)
湘南キャンパス生	62.6 (523)	37.3 (312)	100.0 (835)

(注) 母集団は湘南キャンパス 2011.11 末時点である。

表 2-1-2 回答者と母集団の比較

	男子	女子	計
回答者	44.5 (49)	54.5 (60)	100.0 (110)
湘南キャンパス生	54.4 (454)	45.0 (376)	100.0 (835)

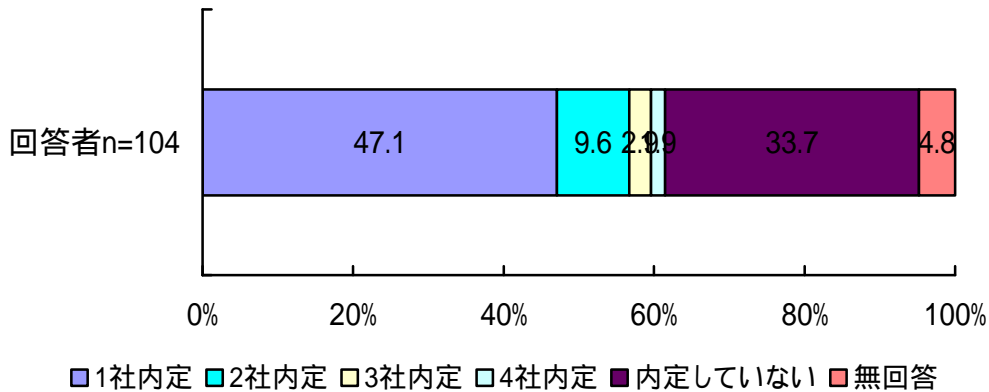
(注) 母集団は湘南キャンパス 2011.11 末時点である。

2.2 内定と非内定の割合

(1) 文教大学生の内定率

この調査は 11 月から 12 月にかけて行われた。この時点での回答者の内定率を以下の図に示す。

図2-2-1 回答者の内定率

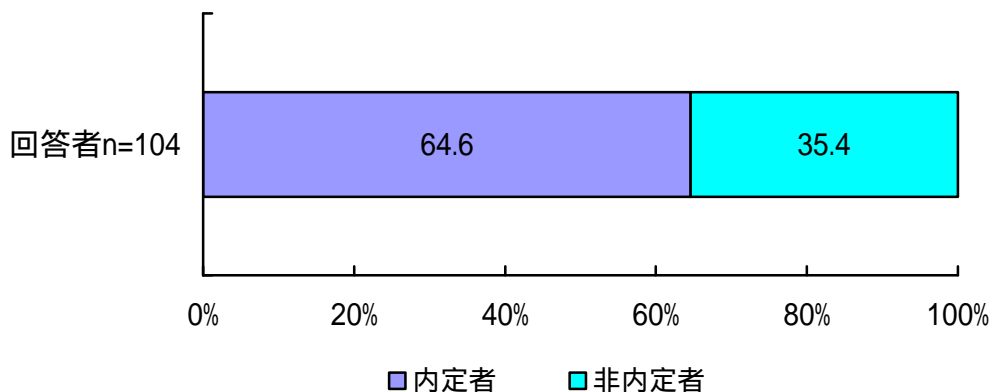


結果は「1 社内定」が最も多く 47%と、「内定していない」の 34%を超えていた。また、少数ではあるが 2 社以上内定を取得した者もいるようである。現時点で内定率は高いかと思われるが、これは調査対象者を無作為抽出していないため、何とも判断はできない。

(2) 内定率と非内定率

この調査では、1 社以上の内定取得者を「内定者」、内定していない者を「非内定者」と二区分にして、様々な設問の回答結果を比較することとした。なお、「内定者」は 65%、「非内定者」は 35%である。

図2-2-2 内定者と非内定者の割合



2.3 学業に見る傾向

内定と大学の講義での受講姿勢や単位の取得具合は、就職活動に影響があるかを調査した。以下の図が結果である。

図2-3-1 内定と大学の単位の取得具合(2乗:*)

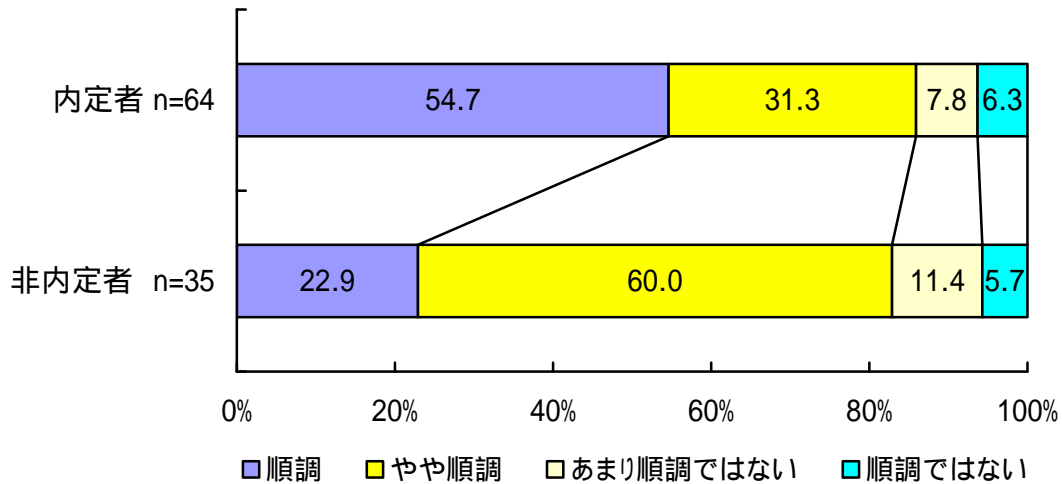
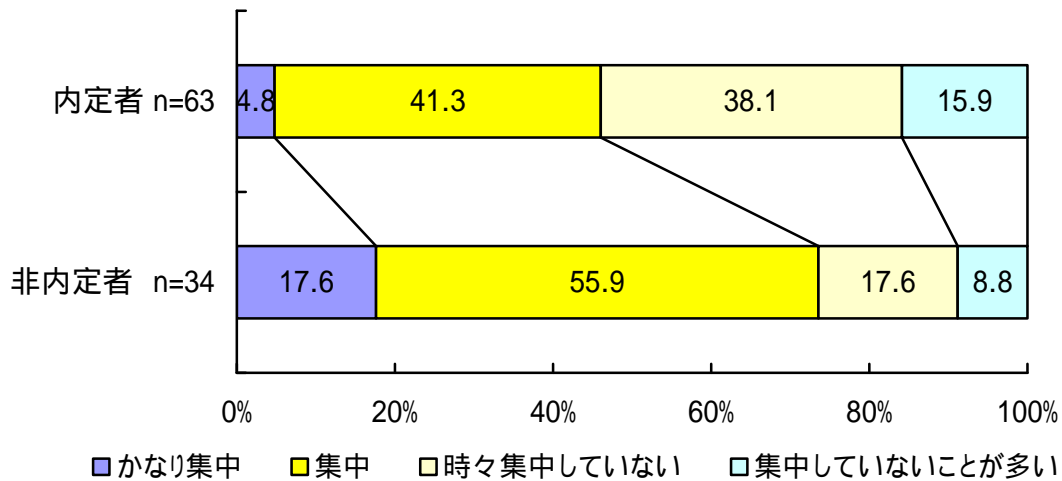


図2-3-2 内定と大学の講義の受講姿勢(2乗:*)



まず、上の単位の取得具合のグラフである。

内定者は「順調である」55%と、非内定者の23%と有意差がある。内定者の単位の取得具合が良いのは予想通りと言えよう。単位の取得具合が良いことは、内定には重要なようである。

しかし、下の講義の受講姿勢のグラフを見ると、非内定者のほうが講義の受講姿勢は良いようである。非内定者が「かなり集中している」18%、「集中して受講している」56%と、集中しているグループで7割を越えているものの、内定者の同じグループは4割強であり、

集中していない人が多いようである。講義に集中する姿勢と内定は直結していないようである。

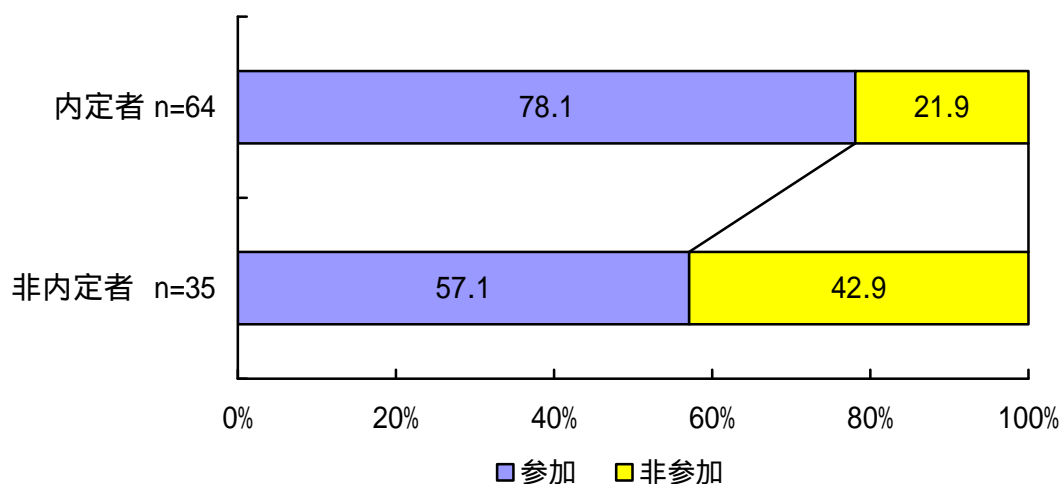
そのことから、学業に集中すること以外の別のことが、内定に効いているのではないかとと思われる。

2.4 課外活動

(1) 課外活動の参加具合

課外活動とは、この調査では部活動・サークル活動などを指した。結果は以下の図である。

図2-4-1 内定と課外活動参加(2乗:*)

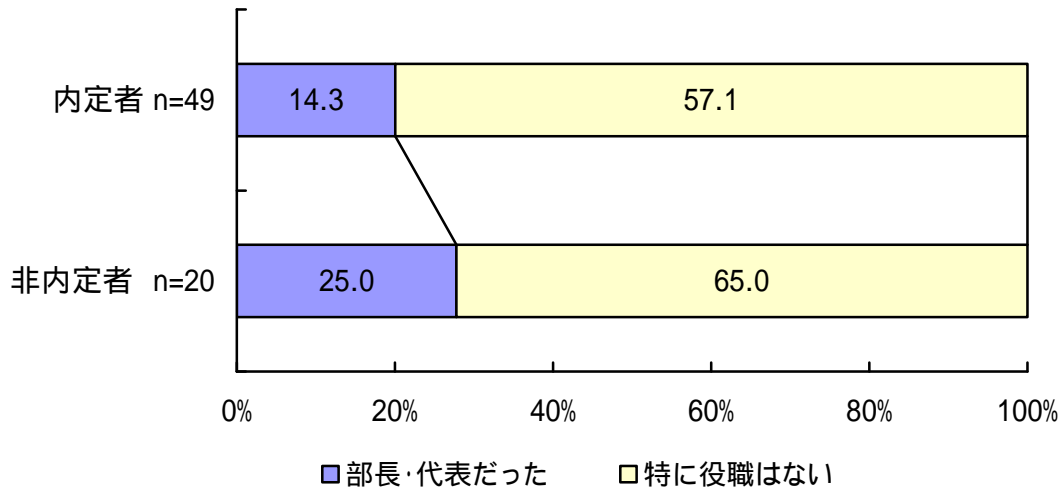


内定者と非内定者では、課外活動の参加率で有意差がある。「課外活動に参加していた」は内定者 78%に対し、非内定者 57%と、内定者の参加率が非内定者に比べ高い。課外活動に参加することは、内定要因と言える。

(2) 課外活動での役職経験

続いて、課外活動での役職の経験率を調査したところ、以下の結果となった。部長・代表やチーフよりも、役職のない部員だった人が多いのは当たり前の話だが、グラフを見比べると、「部長・代表・各部署のチーフだった」は内定者 43%、非内定者 35%と、少しの差ではあるがやはり役職の経験がある人が内定を得やすいようである。

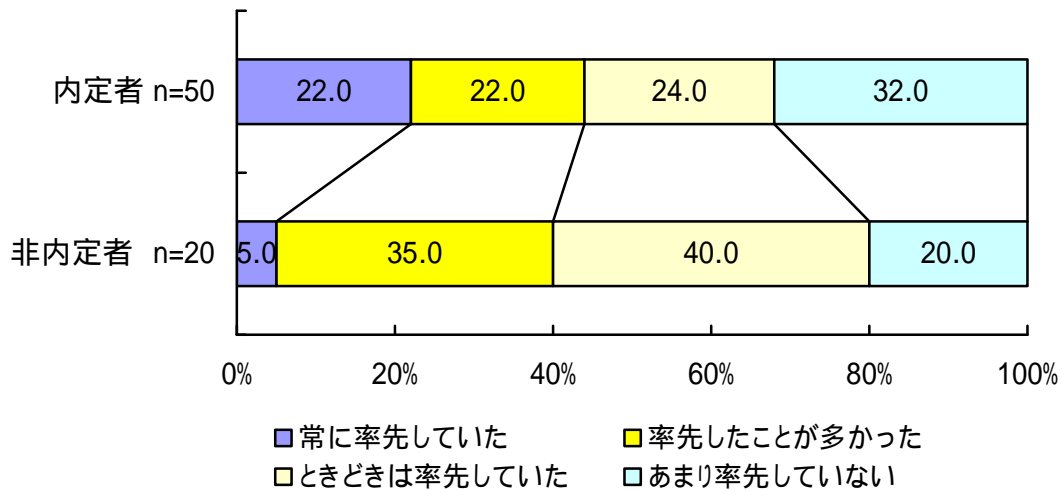
図2-4-2 内定と課外活動の役職経験



(3)課外活動の率先的な活動具合

課外活動では自ら率先的に活動していたか調査したところ、以下の結果となった。

図2-4-3 内定と課外活動での率先的な活動具合



このグラフを見ると「常に率先していた」と「率先したことが多かった」の肯定的な 2 グループは、内定者 44%、非内定者 40%と、やや内定者のほうが上回っている。

また、内定者は肯定的なグループと、「ときどきは率先していた」「あまり率先していない」の消極的なグループが一對一の比率になっているのに対し、非内定者は最も多いのが「ときどきは率先して活動していた」が 40%と、あまり強い判断は出来ていないようである。

以上のことから、課外活動は率先して活動したほうが若干良いかと思われる。しかし、

内定者にも消極的なグループは多いことから、就職活動では他の要素に内定に有利な点があったと思われる。

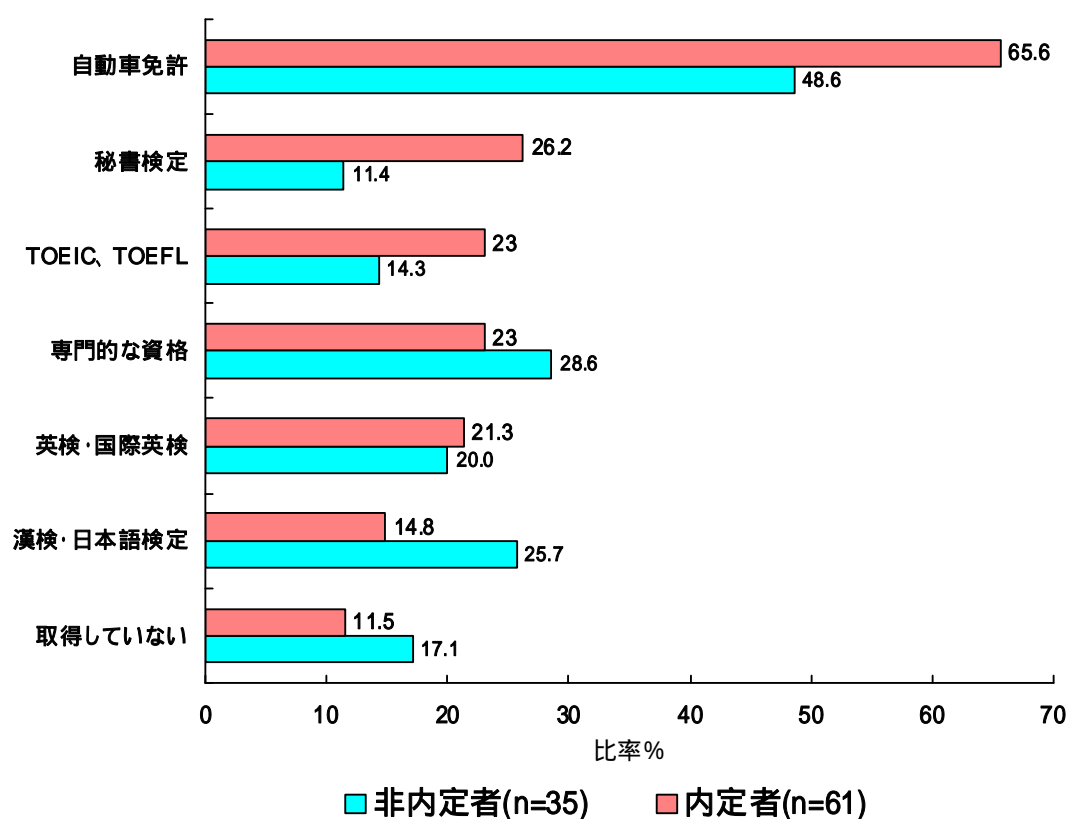
2.5 資格

(1)資格取得の有無と種類

昔から「資格は就職活動に有利」というイメージがあり、学校でも資格取得のための講座が開かれることが多い。しかしながら資格には日本漢字能力検定(漢検)のような子供から取得でき特別就職に影響しなさそうなものから、色彩検定など専門職に必要な資格など、種類は様々である。この項目では回答者がどのような資格を取得しているか調査する。

以下の図が調査結果である。

図2-5-1 所有している資格



まず、資格を取得していないのは内定者 12%、非内定者 17%と、とても低い数値であった。最近では何かしら資格を取得しているようである。

最も所有されている資格は「自動車免許」であり、内定者 66%、非内定者 49%であった。自動車免許は、大学生になれば取るという傾向があるので就職活動のためとは断言できないが、企業によっては自動車免許所有が募集条件になることもあるため、取っておいたほ

うが内定に繋がるようである。

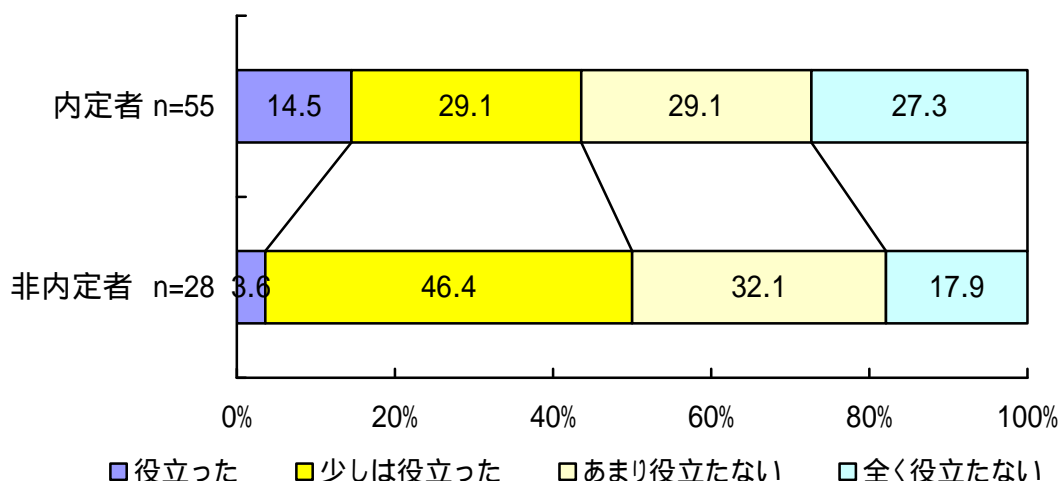
「専門的な資格」はこの調査では色彩検定等専門職に必要な資格とした。その「専門的な資格」は内定者 23%、非内定者 29%と非内定者が上回っている。専門性が強いことから就職活動のために取ったと思われるが、非内定者のほうが多いのは、それだけ専門職は難しいということかと思われる。

専門的な資格以外の項目では、内定者は「TOEIC・TOEFL」「秘書検定」の所有率が高いが、内定者はその逆である。また、「漢検・日本語検定」は非内定者の中で3番目に所有率が高く 26%であるが、内定者は 15%と低い。日本企業のグローバル化が叫ばれる中、就活生の英語の必要性が上がっている結果かと思われる。

(2)資格の役立ち具合

回答者の多くが資格を取得していることはわかったが、実際に就職活動の中で効果を実感したことがあるか調査した。結果を以下の図に示す。

図2-5-2 就職活動での資格の役立ち具合



内定者と非内定者のグラフを見比べると、非内定者より内定者のほうが「資格は役立っていない」と感じているようである。

両者とも「少しは役に立った」が最も多いが、内定者 29.1%に対し非内定者 46.4%とやや差がある。また、内定者は「あまり役に立っていない」「全く役に立っていない」の否定的なグループで 56.4%と半数を超えている。

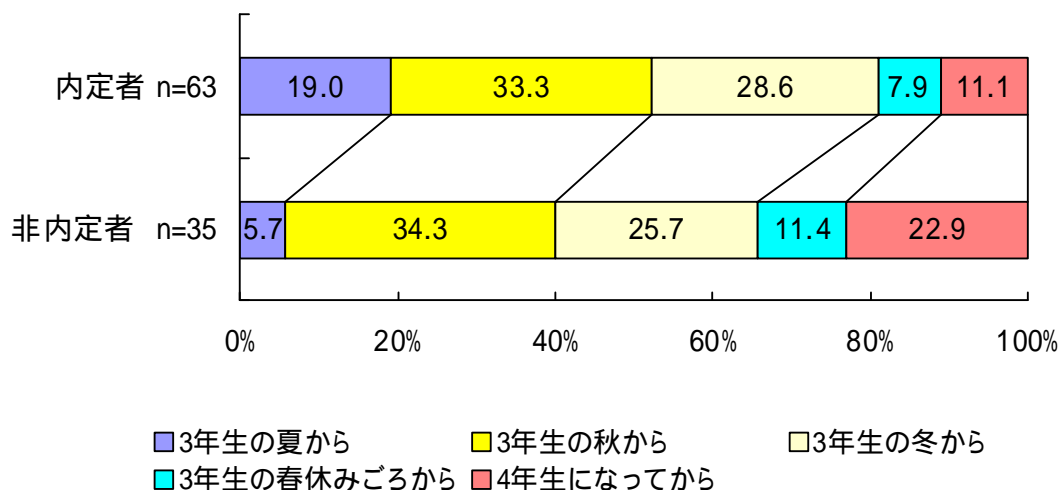
資格を取る就活生は多いようだが、それが役立っていると感じる就活生は半数ほどのようである。これも、課外活動と同じく、就職活動では何かほかに努力した者が多かったのだろう。また、内定者より非内定者のほうが資格が役立っていると感じていることから、非内定者のほうが資格の有効性を信じる傾向が強いようである。

2.6 就職活動の開始時期・活動数など

(1)就職活動を始めた時期

この項目では、就職活動を始めた時期と内定の関連を調査した。結果が以下のグラフである。

図2-6-1 就職活動の準備を始めた時期



グラフから、内定者は開始時期が全体的に早いことがわかる。特に「3年生の夏から」はこの結果の中で最も差が大きく、早く始めることによってライバルの数や選考を受ける経験の数に違いが出てくるものと思われる。

(2)就職活動のための事前準備

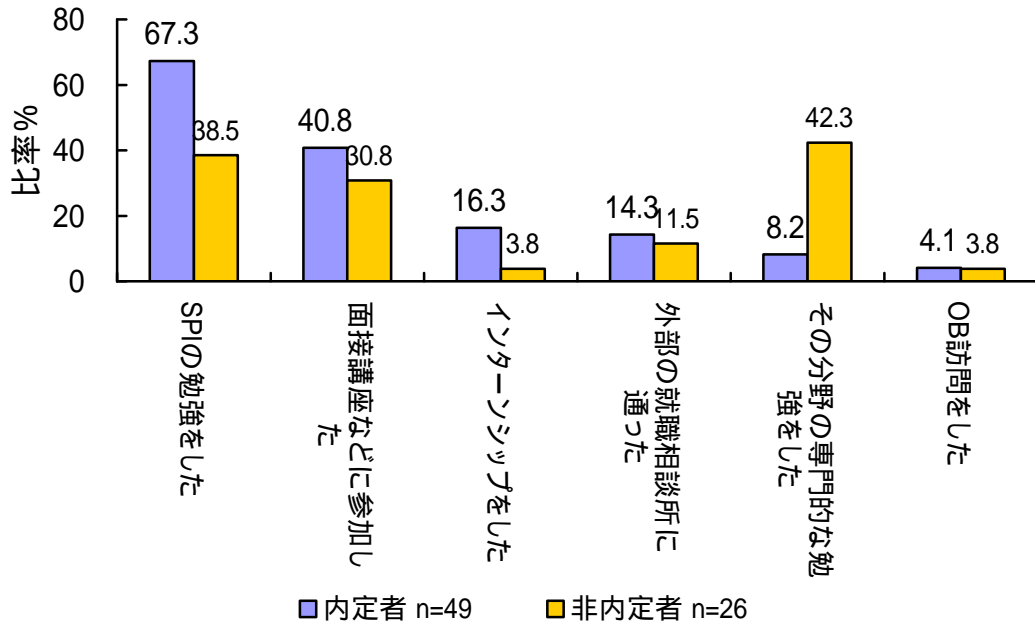
就職活動を始めるにあたって、講座やマニュアル本を読むことなどが多いのは前述の調査でも記述したが、内定者と非内定者では事前準備で何が違うのかを調査した。

調査の結果、内定者と非内定者で最も差があったのは「SPIの勉強をした」であり、内定者 67%、非内定者 39%と、約 30%の違いがあった。学力では数字で差が出るため、より事前の準備によって違いが出ると思われる。

また、続いて高いのは「面接講座などに参加した」であるが、これは内定者と非内定者では 10%ほどの差であった。「インターンシップをした」のほうが内定者 16%、非内定者 4%と、こちらの方が約 12%とやや差が大きい。

なお、「その分野の専門的な勉強をした」は非内定者が内定者を大きく上回っているが、これは資格の調査と同じく、専門職は難しくそのため非内定者も多いのではないと思われる。

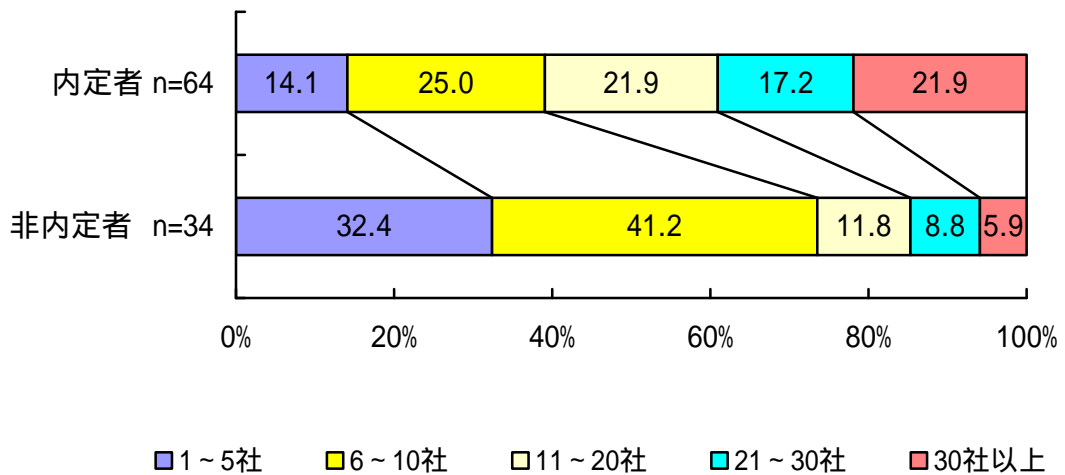
図2-6-2 就職活動のための事前準備



(3) 選考を受けた企業数

選考を受けた企業数を調査したところ、以下の結果となった。

図2-6-3 選考を受けた企業数(2乗:*)



内定者ははどの選択肢も 20%前後だが、非内定者は「1~5社」「6~10社」で7割を超えている。

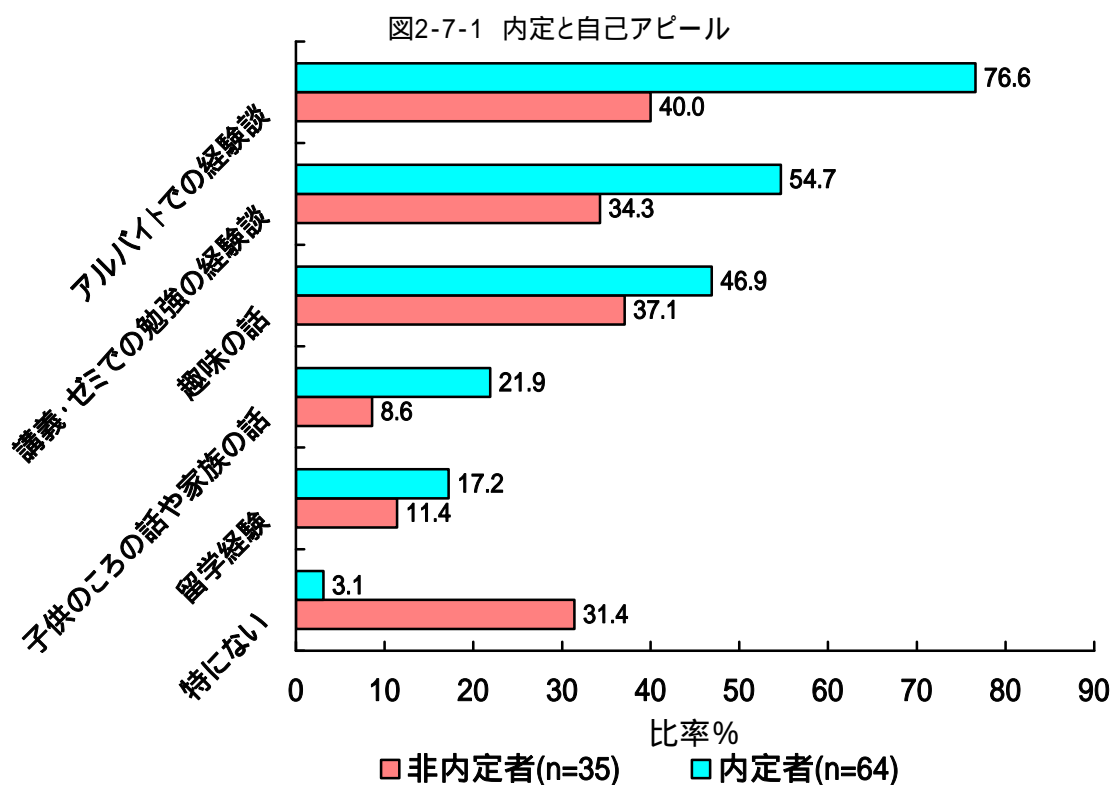
この結果から、非内定者は内定者と比べてそもそも選考を受けた数が少ないのではないかとと思われる。

2.7 自己アピール

(1)自己アピールの内容

就職活動では、自分の栄光のある話を披露したり、実績のある経験談をしたりと、日本人には苦手な自己アピールをほぼ絶対しなければならない。特に、近年のテンプレート化に伴って、話す内容もよりオリジナリティーの強さが必要である。

この項目では、課外活動や資格以外に、就職活動の自己アピールで役立っていることを調査した。以下の図が調査の結果である。



「アルバイトでの経験談」は内定者 77%、非内定者 40%、「講義・ゼミでの勉強の経験談」は内定者 55%に対し非内定者 34%と、この二項目は内定者と非内定者で話す比率に差があり、内定要因と言える。

逆に、「趣味の話」「留学経験」は内定者と非内定者で差が少なく、内定要因とは言い切れない。

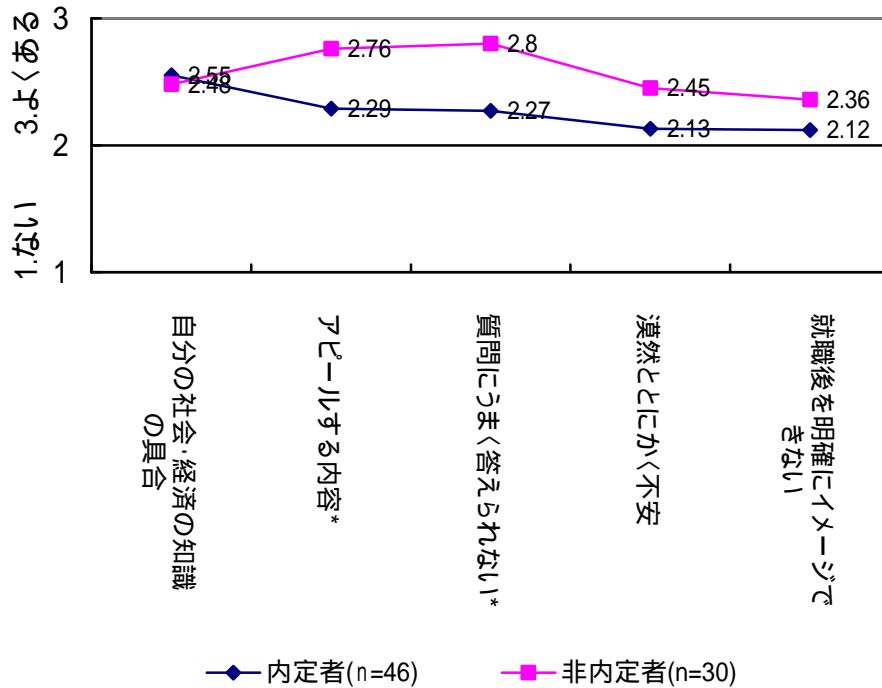
また、「特にない」は唯一非内定者が内定者を上回っている項目であり、非内定者 31.4%に対し内定者 3.1%と大きく差がある。

内定者は自分のどのような話題でも自己アピールの題材にするが、非内定者はあまりそういった発想にならない＝「話すことがない」と考えるようである。話すことがないのはやはり内定は難しいようである。

2.8 就職活動のストレス

実際に就職活動の際、一体何を不安に思い、ストレスを感じるのか調査した。以下の図が調査結果である。数値が高い(グラフの上部)ほど、ストレスを感じる平均値が高い。

図2-8-1 就職活動のストレス



調査の結果、内定者で最もストレスを感じることは、「自分の社会・経済の知識の具合」2.55であった。

非内定者で最もストレスを感じることは「質問にうまく答えられない」2.8であり、続いて「アピールする内容」が2.76と続く。この二つは内定者と比べて有意差がある。

以上の結果から見ると、非内定者は、主に企業側の質問や自己アピールなど面接時に不安を感じる人が多いようであり、選考を受けた企業数の調査で「10社以下」が7割を越えたことも、この結果に関連しているかと思われる。また、内定者はそもそもの自分の社会の知識に不安を持つようである。

なお、非内定者は内定者より全体的にストレスを感じているようであり、ストレスで就職活動にさらに後ろ向きになるという研究(松田、2010)からも、何か改善策が必要かと思われる。

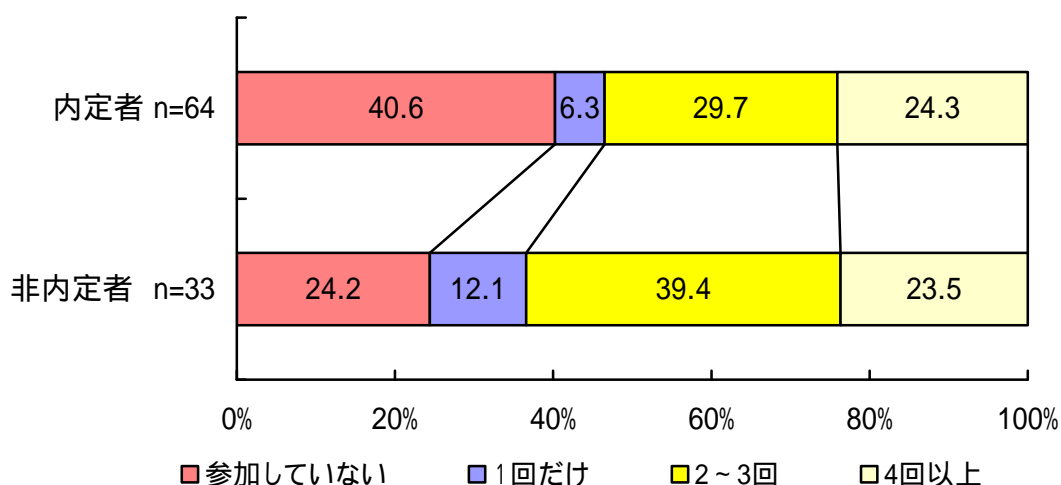
2.9 就職活動の定型的努力

(1) 就活講座参加率

就職活動自体が恒例化してしまい、就活生たちの行動もテンプレート化しているという指摘(井村、2010)から、実際に文教大学4年生の就職活動が定型的になっているか調査した。

まず、SPI・面接講座の参加率を調査した。規模は合同説明会と一緒に大規模に開かれるものから、大学の就職支援課や就職相談所などの20名程度のものなど差はあるが、ここでは問わないこととした。以下の図が結果である。

図2-9-1 内定とSPI・面接講座の参加



意外なことに、内定者で一番多いのは「参加していない」の41%であり、非内定者の24%より約2倍の比率となっている。

非内定者で一番多いのは「2~3回参加」の40%であり、これは妥当な数値かと思われる。内定者は30%であるが、非内定者より約10%差がある。

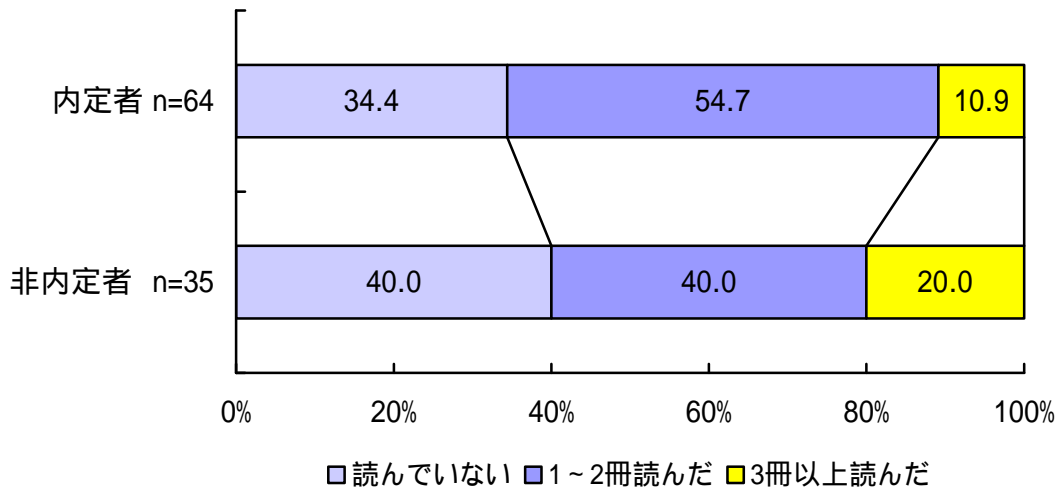
なお、「4回以上」は、どちらもほぼ24%と、あまり変わらない結果となった。

全体的に、講座に参加するのは非内定者のほうが多く、内定者は参加しないで自分で準備するか、参加するなら1回より数回参加するようである。ただ、自分で準備したもののほうが、定型的になることなく良い結果につながっているのではないかと思われる。

(2) 就活マニュアル既読率

最近では、講座だけではなく、就職相談所の人気相談員や私営の就職塾の“就職コンサルタント”などが書いた、いわゆる「就活マニュアル本」が多く発売されており、就職活動のテンプレート化の理由の一つと言われている。そこで、文教大学の就活生の就活マニュアル本既読率を調査したところ、以下の結果となった。

図2-9-2 内定と就活マニュアル本



内定者と非内定者では、就活マニュアル本の既読率に有意差があった。「3~4冊読んだ」は内定者では5%であるのに対し、非内定者は20%である。既読率に差があった。

しかしながら、「読んでいない」も内定者34.4%に対し非内定者は40.0%と若干上回っていること、また非内定者の「1~2冊読んだ」と「読んでいない」が同じ数値であることから、非内定者の中で、情報過多の者と過少の者の2種類がいると思われる。

結論として、1、2冊なら読んだほうが良いが、多すぎても良くないようである。

(3)就活サイト登録数と活用具合

続いて、就職活動情報サイト(以下、就活サイト)の登録率と活用率を調査した。

就活サイトはいわゆる「リクナビ」「マイナビ」「en ジャパン」などのサイトを指し、求人情報から自己診断テスト、就職活動のアドバイスなどが掲載されている。

このようなサイトからエントリーすることが選考への第一歩となっている企業が大多数であり、最近の就職活動には欠かせないものとなっている。

しかし、Web エントリーのため企業との関わりがある程度までいかないと人間味が薄いこと、情報量が多いため混乱や機能を使いきれないこと、それでいて大手企業の情報ばかりで偏りがあることなど、賛否は尽きない。

以下、サイト登録率と実際のサイト活用率を図で示したものである。二つのグラフを見比べていただきたい。

図2-9-3 内定と就活サイト登録数

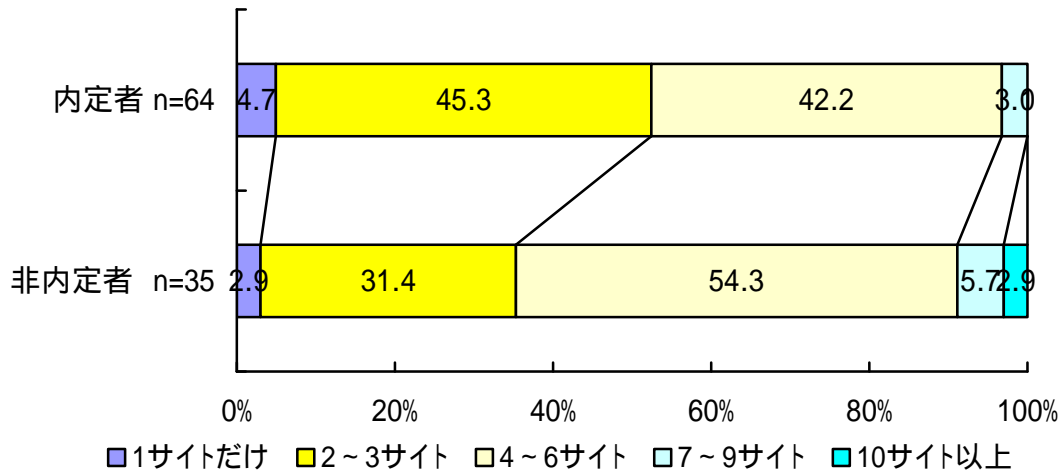
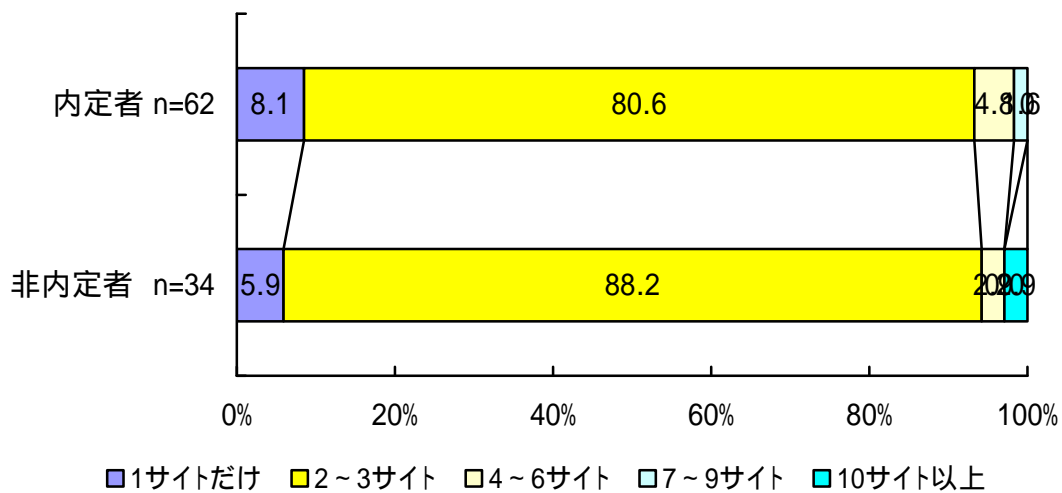


図2-9-4 内定と実際の就活サイト活用具合



まず、就活サイトの登録数を調査したところ、「2~3 サイト登録」が内定者で 45%、非内定者で 31%であり、続いて「4~6 サイト登録」が内定者 42%、非内定者 54%と、この 2 グループが大半であった。若干非内定者のほうが、内定者より 1、2 サイト多く登録する傾向にあるようである。

続いて、実際の就活サイトの活用具合を調査したところ、両者そろって「2~3 サイト」が最も多く、内定者 81%、非内定者 88%であった。「4~6 サイト」と答えたのは内定者 5%、非内定者 3%と、登録数と比べて大変低い数値になっている。

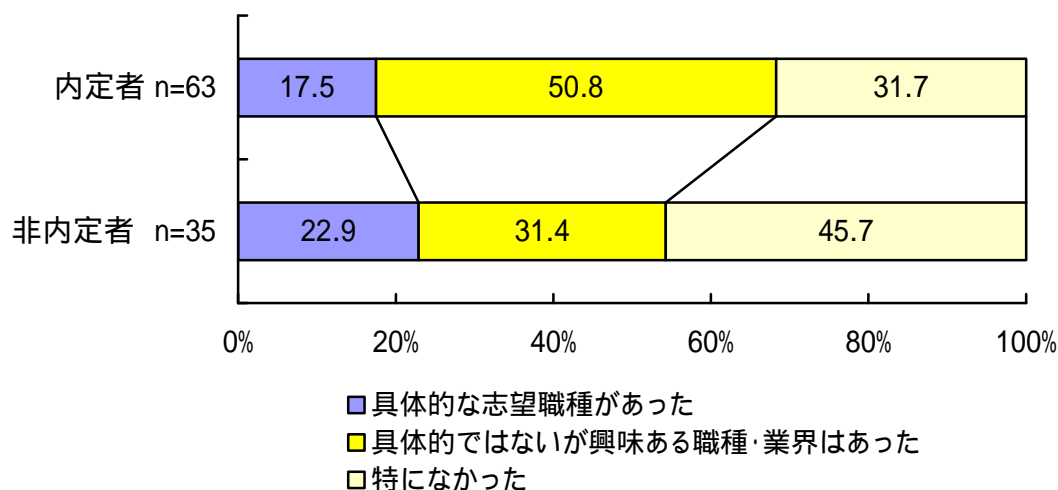
4~6 サイト登録しても、結局は 2~3 サイトしか使わない就活生が多いようであり、また、その傾向は非内定者のほうがやや上回っているようである。登録率の結果とは逆の結果になったと言える。増やそうとする気持ちに結果につながる問題があると思われる。

2.10 モラトリアム

(1)大学1・2年生のころの志望職種

ここでは、大学1・2年生のころに将来の希望(志望職種)があることが内定に影響があるかどうか調査した。以下の図が結果である。

図2-10-1 大学1・2年生のころの志望職種の有無



このグラフから見ると、「具体的な志望職種があった」は内定者 18%に対し非内定者は23%であり、非内定者のほうが比率は高い。

しかし、「特になかった」も、非内定者のほうが内定者より高く、内定者 32%に対し非内定者 46%と、「具体的な志望職種があった」よりも差は大きい。

なお、内定者で最も多いのは「具体的ではないが興味ある職種・業界があった」の50%である。

この結果、大学1・2年生のころに将来の希望があるほうが望ましいと思われる。しかし「具体的な志望職種があった」は非内定者が多い点は、特定すればそれだけ思い通りにいかず、それだけ失敗も多いということかと思われる。

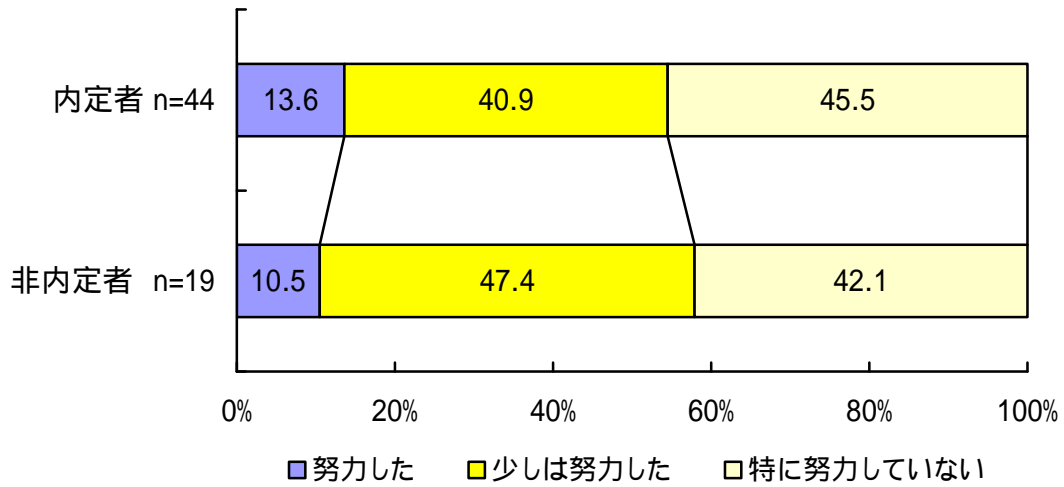
(2)志望職種のための努力

「具体的な志望職種があった」「具体的ではないが興味ある職種・業界があった」の二組は何か大学以外で志望職種のために準備したことはあるかを調査した。以下が結果である。

このグラフを見ると、やはり非内定者のほうが準備に努力している割合が高いようである。しかし、先ほどの結果と比べると大きな差はなく、内定者は具体的ではないものの積極性はあるようだ。

しかし、どちらも「特に準備はしていない」が内定者 46%、非内定者 42%と大きく、準備しているものは少数と思われる。

図2-10-2 志望職種のために大学以外での準備の有無



(3)卒業後の経済的自立の意向

ここでは、卒業後は親からの経済的な援助から離れ、自立すべきと思っているかどうか、就職活動に影響するかどうか、また、現在の世帯状況を調査した。結果を以下に示す。二つのグラフを見比べてほしい。

図2-10-3 卒業後の経済的自立の意向(2乗:*)

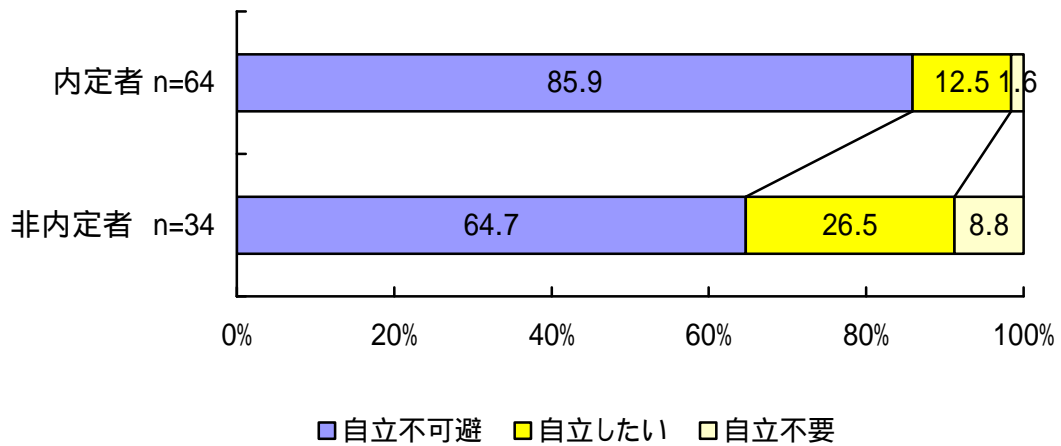
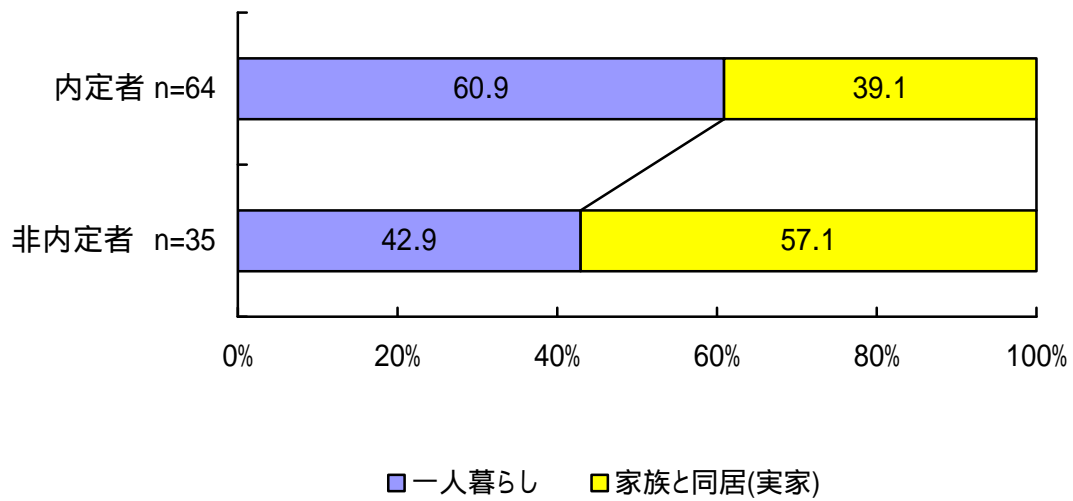


図2-10-4 世帯状況



まず、自立の意向のグラフを見ると、「自立不可避」が内定者 86%、非内定者が 65%と差があり、内定者のほうが卒業後は経済的に自立しなければならないと思っているようである。

続いて、世帯状況のグラフを見ると、内定者と非内定者は世帯状況がほぼ真逆であり、内定者は一人暮らしが 61%である。現在の被自立な環境が今後の経済的な自立に影響を与えているのかもしれない。

第3章 まとめと今後の課題

3.1 研究結果のまとめ

まず、最初に立てた就職活動の8要素を基に結果を振り返りたい。

(各要素)	(内定者)	(非内定者)
学業	順調に単位が取れている。 受講姿勢は良い者と良くないが努力している者の半々。	やや順調である。 受講姿勢は良い。
課外活動	従事者が多い。 従事者は活動に率先的だった者と消極的だった者との半々。	従事者は少ない。 従事者は活動に消極的だった者が多い。
資格	持っている者が多い。 秘書検定、TOEIC・TOEFLを持っている者が非内定者より多い。	持っている者が多い。 漢検・日本語検定を持っている者が内定者より多い。
就職活動開始時期・活動数	全体的に早め。夏から始める者が非内定者より多い。	人によってばらつきがある。秋から始める者が多く、4年生になってから始める人もいる。
自己アピール	アルバイトでの経験談、ゼミ・講義での経験談が多い。 なんでも話題にしている傾向。	全体的に経験談を話すことは少なめ。 「特にない」が31%。
ストレス	「自分の社会・経済の知識の具合」のことで感じている人が多い。 非内定者よりはストレスは感じていないが強いわけでもないよう。	面接時の悩み～全体的にストレスを感じていることが多い。 (面接時の悩みによって、活動数低下と思われる) ストレスの改善は必要。
就職活動の定型的努力 (マニュアル本)	読んでいないか、1、2冊読むかのどちらか。	読まない者と読む者が半々。 3冊以上読む者もいる。
モラトリアム	1・2年生のときには具体的な志望職種～具体的ではなくても興味ある分野はあった。 自立意識は高い者が多い。	内定者よりも1・2年生のときに具体的な志望職種があった者、特になかった者が多い。 (具体的であるゆえ問題もあり非内定かと思われる。 自立意識はやや高い～低い

今回の調査では興味ある結果が取れたが、いまひとつ強く言い切れる差がなかったと感じている。それほど就職活動は一筋縄ではいかないということかと思われる。

しかし、その中でも、学業、課外活動、就職活動時期・活動数、自己アピール、

モラトリアムが印象的な結果だったかと思われる。

学業の姿勢が就職活動に影響しないことはややショッキングな結果であった。反対に、課外活動従事者で率先的な態度な者の内定率が良いことは、課外活動で得た積極性や協調性、また経験談が就職活動で役立ったのだと思われ、納得できる。

開始時期は早く、場数が多いほうが良いことも素直に理解でき、自己アピールの調査では、話す内容もそうだが何でも題材にしようとする姿勢にも良さを感じた。

また、猶予期間であるモラトリアム期に、1・2年生のころから将来の目標があり、自立心を育てる環境にいることが大切だということは、今年度の就職活動の結果だけでなく、モラトリアム期が終わらないことへの警鐘とも言えるだろう。これから就職活動を行う2、3年生にはぜひ心がけてほしいことである。

3.2 今後の課題

今回調査をするうえでは、特にストレス、定型的努力(テンプレート化)の調査が甘かったのではないかと思われる。また、モラトリアムの設問の際にも、就職活動の研究で何を持って「アイデンティティの確立=モラトリアムの終了」とするか定めるのも難しかった。今後調査する際にはよりパーソナルな調査を目指す、調査の性質上込み入った質問をする際には注意したい。

また、何よりはっきりした調査結果にならなかったことが就職活動のむずかしさを表しているかと思う。あくまで大切なのはその人の人間性である。

ただ、この調査が不景気のなかの就職活動でちょっとしたヒントになれば幸いである。

最後に、この繊細な内容の調査にご協力いただいた回答者の皆様にはお礼を述べるとともに、非内定者の方には不快な質問もあったことへの謝罪と、それでもご協力くださったことに重ね重ねお礼を述べたいと思う。

卒業研究のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

問1 あなたは就職活動をしましたか。(1つだけに) n=110

1. している 94.5 2. していない F1へ 5.5

問2 面接講座、エントリーシート講座等には参加しましたか。(1つだけに) n=104

1. 1回だけ参加 7.7 2. 2~3回参加 32.7 3. 4~6回参加 8.7
4. 7~9回参加 6.7 5. 10回以上参加 7.7 6. 参加していない 33.7 無回答 2.9

問3 いわゆる“就活マニュアル”は読みましたか。(1つだけに) n=104

1. 1~2冊読んだ 49.0 2. 3~4冊読んだ 10.6 3. 5冊以上読んだ 3.8 4. 読んでいない 36.5

問4 就活サイトはいくつ登録していますか。(1つだけに) n=104

1. 1サイトだけ登録 3.8 2. 2~3サイト登録 41.3 3. 4~6サイト登録 46.2
4. 7~9サイト登録 3.8 5. 10サイト以上登録 1.0 6. 登録していない 問5へ 3.8

付問1 登録した中で、実際に使っていた就活サイトはいくつですか。(1つだけに) n=101

1. 1サイトだけ 6.9 2. 2~3サイト 82.2 3. 4~6サイト 5.0
4. 7~9サイト 1 5. 10サイト以上 1.0 6. 一つもない 4.0

問5 あなたは部活動・サークル活動等の課外活動をしましたか。(1つだけに) n=104

1. していた 71.2 2. していない 問6へ 28.8

付問1 課外活動では、役職などにはつきましたか。(1つだけに) n=74

1. 部長・代表だった 16.2 2. 各部署のチーフだった 21.6 3. 特に役職はない 60.8

付問2 課外活動には、どの程度参加していましたか。(1つだけに) n=74

1. 週5日以上 9.5 2. 週3~4日 16.2 3. 週1~2日ほど 50.0 4. 1日未満 24.3

付問3 課外活動では、率先して活動していましたか。(1つだけに) n=74

1. 常に率先して活動していた 16.2 2. 率先して活動することが多かった 43.2
3. ときどきは率先して活動していた 29.7 4. あまり率先して活動していない 27.0

付問4 部活動・サークル活動の経験は、就職活動で役立ちましたか。(1つだけに) n=74

1. 役に立った 39.2 2. 少しは役に立った 33.8 3. あまり役に立っていない 25.7 無回答 1.4

問6 資格は取得していますか。履歴書に書ける資格について教えてください。(あてはまるだけ) n=104

1. TOEIC、TOFLEを取得 10.4 2. 英語検定、国際英検を取得 10.9
3. 漢字検定、日本語検定を取得 10.4
4. 秘書検定を取得 11.5 5. 色彩検定等、専門的な資格を取得 14.2
6. 自動車免許を取得 33.3 7. 取得していない 問7へ 7.7 無回答 1.6

付問1 狙いから見た取得の数はどうですか。(下線部に記入) n=99

- A. 職種的に必要で取得した ... 0個 75.8 1個 10.1 2個 7.1 3個 1.0 4個 1.0 無回答 5.1
 B. 印象を上げるため取得した ... 0個 73.7 1個 14.1 2個 5.1 3個 1.0 4個 1.0 無回答 5.1
 C. 就職活動に関係なく取得した... 0個 29.3 1個 34.3 2個 15.2 3個 11.1 4個 4.0 6個 1.0 無回答 5.1

付問2 資格は就職活動で役立ちましたか。(あてはまるだけ) n=89

1. 役に立った 10.1 2. 少し役に立った 33.7 3. あまり役に立っていない 31.5
 4. 全く役に立っていない 22.5 無回答 2.2

問7 自己アピールで、役立っていることはありますか。(あてはまるだけ) n=104

1. アルバイトの経験談 31.6 2. 講義・ゼミでの勉強の経験談 24.4
 3. 留学経験 7.7 4. 子供のころの話や家族の話 8.1
 5. 趣味の話 21.5 6. 特にない 6.7

問8 自己アピールで、不安に思うこと・ストレスを感じたことはありましたか。(それぞれ1つに) n=104

	よくある	ときどきある	ない	無回答
A. アピールする内容	50.0	28.8	18.3	2.9
B. 自分の学歴	39.4	29.8	27.9	2.9
C. 自分の社会・経済の知識の具合	50.0	32.7	15.4	1.9
D. 質問にうまく答えられない	51.9	26.0	18.3	3.8
E. 就職後を明確にイメージできない	37.5	31.7	27.9	2.9
F. 漠然ととにかく不安	42.3	28.8	26.0	2.9

問9 自分がどのような仕事をするかのイメージを持って、面接に臨むことはありますか。(1つだけに) n=104

1. いつもそうしている 26.9 2. 大体はそうしている 51.9
 3. 時々はそうしている 9.6 4. あまりしていない 9.6 無回答 1.9

問10 大学の講義の出席状況はどうですか。(1つだけに) n=104

1. 必ず出席する 16.3 2. ほとんど出席する 63.5 3. 時々出席しない 14.4 4. あまり出席しない 5.8

問11 大学の講義の受講姿勢はどうですか。(1つだけに) n=104

1. かなり集中して受講している 8.7 2. 集中して受講している 47.1
 3. 時々集中していない 29.8 4. 集中していないことが目立つ 12.5 無回答 1.9

問12 学業は順調ですか。(1つだけに) n=104

1. 順調である 44.2 2. やや順調である 40.4 3. あまり順調ではない 9.6 4. 順調ではない 5.8

問13 大学入学時、将来の志望職種はありましたか。(1つだけに) n=104

1. 具体的な志望職種があった 20.2 2. 具体的ではないが興味のある職業・業界があった 44.2
 3. 特になかった 問14へ 34.6 無回答 1.0

付問1 志望職種ために大学の学業以外に準備はしましたか。(1つだけに) n=69

1. 準備に努力した 13.0 2. 少しは準備した 39.1 3. 特に準備はしていない 問14へ 44.9
 無回答 2.9

付問2 志望職種のために何か事前に準備はしましたか。(あてはまるだけ) n=43

1. 企業訪問をした 28.0 2. その分野につながる専門的なアルバイトをした 16.0
3. その分野の短期講座に参加した 12.0 4. その分野の専門的な勉強をした(Wスクール・通信講座など) 20.0
無回答 24.0

問14 いつごろから就職活動の準備を始めましたか。(1つだけに) n=104

1. 3年生の夏から 13.5 2. 3年生の秋から 33.7 3. 3年生の冬から 26.0
4. 3年生の春休みごろから 9.6 5. 4年生になってから 15.4 無回答 1.9

問15 就職活動では、志望企業の絞り込みはどうしましたか。(1つだけに) n=104

1. 希望分野のみに絞った 14.4 2. 希望分野と他に興味のある分野を志望した 61.5
3. 特に限定しなかった 問16へ 21.2 無回答 2.9

付問1 就職活動のために何か事前に準備はしましたか。(あてはまるだけ) n=81

1. OB訪問をした 3.4 2. インターンシップに参加した 9.3 3. SPIの勉強をした 38.1
4. 面接講座などに参加した 23.7 5. 外部の就職相談所に通った 9.3
6. その分野の専門的な勉強をした 14.4 無回答 1.7

問16 大学を卒業したら経済的自立をしなければならないと思いますか。(1つだけに) n=104

1. そう思う 78.8 2. ややそう思う 16.3 3. あまりそう思わない 1.9 4. そう思わない 1.9 無回答 1.0

問17 就職するにあたって、自分の適性を見極めることは重要だと思いますか。(1つだけに) n=104

1. そう思う 52.9 2. ややそう思う 39.4 3. あまりそう思わない 7.7 4. そう思わない 0

問18 あなたにとって働くとはどういったことですか。(1つだけに) n=104

1. 企業の発展に尽くすこと 2.9 2. 自分の夢や希望を叶えること 20.2 3. 人生の成長の場 39.4
4. 人との交流の場 5.8 5. 収入源 26.0 6. 特に意味はない 2.9 無回答 2.9

問19 就職活動のことで家族と相談することはありましたか。(1つだけに) n=104

1. よく相談した 26.0 2. 時々相談した 36.5
3. あまり相談しなかった 26.9 4. 全く相談しなかった 問20へ 10.6

付問1 家族からのアドバイスは参考になりましたか。(1つだけに) n=93

1. とても参考になった 19.4 2. やや参考になった 54.8
3. あまり参考にならなかった 18.3 4. 全く参考にならなかった 6.5

問20 あなたの日々の多忙さはどうでしたか。(1つだけに) n=104

1. 予定が多くて忙しい 21.2 2. やや忙しい 48.1 3. あまり忙しくない 24.0
4. 全く忙しくない 5.8 無回答 1.0

問21 あなたは何回合同説明会に行きましたか。(1つだけに) n=104

1. 1~5回 64.4 2. 6~10回 14.4 3. 11~20回 6.7 4. 21~30回 5.8 5. 30回以上 2.9
無回答 5.8

問2 2 あなたは何社個別の企業説明会に行きましたか。(1つだけに) n=104

1. 1~5社 18.3	2. 6~10社 26.0	3. 11~20社 20.2	4. 21~30社 13.5	5. 30社以上 18.3
無回答 3.8				

問2 3 あなたは何社選考を受けましたか。(1つだけに) n=104

1. 1~5社 19.2	2. 6~10社 29.8	3. 11~20社 17.3	4. 21~30社 13.5	5. 30社以上 16.3
無回答 3.8				

問2 4 あなたは何社内定しましたか。(1つだけに) n=104

1. 1社 47.1	2. 2社 9.6	3. 3社以上 2.9	4. 4社以上 1.9	
5. 内定していない F 1へ 33.7	無回答 4.8			

問2 5 あなたの就職活動は終了していますか。(1つだけに) n=69

1. 終了した 78.3	2. 終了していない 18.8	無回答 2.9
--------------	-----------------	---------

問2 6 内定先は就職活動を始めた当初の希望に合ったものですか。(1つだけに) n=69

1. 合っている 30.4	2. やや合っている 31.9	3. あまり合っていない 21.7
4. 全く合っていない 4.3	無回答 11.6	

問2 7 あなたの内定先への満足状況はどうですか。(1つだけに) n=69

1. 大変満足している 30.4	2. やや満足している 49.3	
3. あまり満足していない 7.2	4. 全く満足していない 4.3	無回答 8.7

最後にあなた自身のことについてお聞きします。

F 1 性別 n=110

1. 男性 44.5	2. 女性 54.5	無回答 0.9
------------	------------	---------

F 2 学科 n=110

1. 広報学科 25.5	2. 経営情報学科 22.7	3. 情報システム学科 10.0	
4. 国際理解学科 25.5	5. 国際観光学科 14.5	6. 健康栄養学科 0	無回答 1.8

F 3 世帯状況 n=110

1. 一人暮らし 55.5	2. 家族と同居(実家) 43.6	3. その他 0	無回答 0.9
---------------	-------------------	----------	---------

F 4 兄弟の人数 n=110

1. 1人 47.3	2. 2人 73.6	3. 3人以上 18.2	4. いない 7.3	無回答 0.9
------------	------------	--------------	------------	---------

調査は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。